

**演題番号** 表題 BMI が医療費に与える影響について

○全国健康保険協会 愛知支部

**要旨**

BMI と医療費の関係を明らかにする。分析結果は BMI が高ければ高い程医療費が増加する割合が高くなり、また BMI18~21 の階層の医療費が低いことがわかった。これを医療費抑制策に活用したい。

**本文**

1. 目的

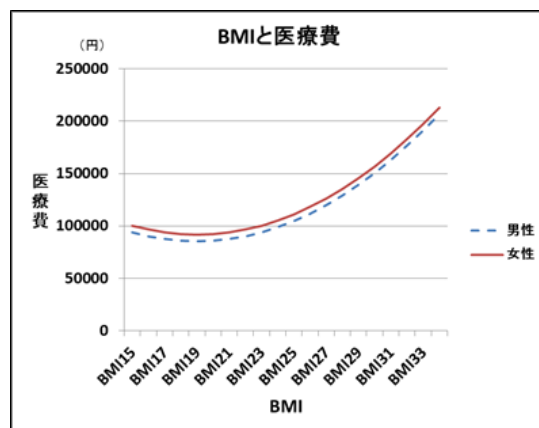
本研究の目的は BMI（肥満の程度）と医療費の関係を明らかにすることである。近年、医療費が増加しており、医療保険財政を圧迫している。保険制度を持続的に運営するため医療費を抑制する必要に迫られている。そこで、BMI が実際のどの程度医療費に影響を与えているのかを分析し医療費を抑制するために必要な情報を得ることにしたい。

2. 方法

BMI と医療費の関係を調べるために全国健康保険協会（協会けんぽ）愛知支部加入者の協会けんぽの健診を受診している 35 歳～74 歳の被保険者データ 1 年分（平成 25 年 11 月～平成 26 年 10 月）を用いた。分析方法としては回帰分析を用いる。被説明変数に 1 人当たり年間総医療費、説明変数に BMI と BMI の二乗を使用している。さらに健診受診者の BMI 以外の要因をコントロールするために性別、年齢、年齢の二乗を説明変数に加えている。また、サンプル数の少ない BMI は除いた。

3. 結果

BMI の係数はマイナスであり、二乗項の係数はプラスで有意であった。これは、BMI と医療費の間に U（J）字型の関係があることを意味している。このことからおおむね BMI が増加すればするほど医療費が増加する割合が高くなることがわかった。また、医療費の低い BMI の階層は 18～21 程度であった。ただし、この BMI の推定式にはコントロールしきれていない要因があるため今後の課題にしたい。



【男女別 BMI と医療費の図】

4. 考察

この分析結果から BMI が 18～21 程度が医療費抑制につながる事が確認できた。BMI（体重÷身長<sup>2</sup>）は誰でも簡単に確認できる指標であるが、健診結果に記載がある程度で、特に若い世代に浸透していない。そこで、生活習慣が定着する前の若い段階から健康指標として BMI を意識できるような広報を行い周知する。その結果が医療費を抑制する一助になると考える。